

第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会第3回総会議事録

平成23年5月20日

県庁第22会議室

事務局

はい、それでは定刻となりましたので

ただ今から「第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会第3回総会」を開催いたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます、鳥取県農林水産部森林・林業総室全国植樹祭準備室の大北と申します。よろしくお願いいたします。

まず、会を始めるに当たりましてみなさまにご協力をお願いいたします。

東日本大震災によって犠牲になられた多くの方々のご冥福を祈り、黙祷を捧げたいと思います。ご起立をお願いいたします。

それでは、一同黙祷。

～ 黙 祷 ～

はい、ありがとうございました。

それでは開会に当たりまして、会長であります鳥取県知事 平井伸治がご挨拶申し上げます。

平井会長

みなさまこんにちは。

本日は暑い中、お忙しいところをお越しいただきまして誠にありがとうございました。

本日ここに全国植樹祭の実行委員会の開催をさせて頂いたわけでございますけど、ぜひともみなさまと共に平成25年のこの大会を実現し、成功させて参りたいと存じます。

みなさんの大きな、大きなお力を賜りますようお願いを申し上げます。

そして、本日はお忙しいところにも関わりませず、伊藤美都夫県会議長、この度緑化推進委員会の会長に就任をされたばかりでいらっしゃいます。また、前田八壽彦議員を初め議員の関係者さらに常田理事長、岸田理事長、藤原理事長はじめ林野の関係の方々やあるいは田中会長だとか井関会長だとか関係団体のみなさま、数多くお越しを頂きましたこと、本当に感謝を申し上げます。

私事ではございますけど、少々骨を折りまして今日もこうして片足で立っているということになりますけれども、みなさまにご迷惑をお掛けしていることをお詫び申し上げます。そういうふうを考えておりましたら、先程、常田理事長が寄ってこられまして、実は私も骨を折ったという話でございまして、苦勞をする人は力んでいるのだという

事を申し上げたいという気分になりました。

まゝ、冗談はさておきにいたしまして、まゝこれから全国植樹祭、平成 25 年に向けて準備をしていくわけでありますが、いよいよ和歌山県での大会が開かれることになるわけがあります。まゝ恒例によりますれば天皇皇后両陛下もお見えになる、お出ましになるそういう格の高い大会でありまして、本県も全力を挙げて成功に導いて参りたいというふうにご考えております。ただ、自然の恵みというものは貴重なものでございますけれども、ときに大変な猛威を振るうわけでございます。東日本の大震災がその一つでございますし、たった今も八頭町の中地区で森林火災が発生をしております。緑を守ること、そしてそれをするための人間の努力というものが、ぜひとも必要だというふうに思います。大変な中ではございますけれども、この全国植樹祭に向けて着々と歩みを進めるべき時期であろうかと思っております。秋には「全国豊かな海づくり大会」が開かれそれが終わりますと、この植樹祭一色に本県も変わってくるだろうと考えております。限られた時間ではありますが、みなさまにも多くのご意見を寄せていただきまして、大会の成功へと導いていただければ、誠にありがたいと存じる次第でございます。「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」というそういう言葉を宇田川 菜さんという米子南高の生徒が考えて下さいました。また、本日は目の前にございますように、関連の木材を使用しましたベンチのコンテストの結果等も出て参ります。

いよいよこれから、基本的な計画をたて、さらには実施に向けた計画をたてという具体的な段階へと一步一步進んでいくこととなります。この平成 23 年度はキックオフになるかと思っておりますが、ぜひ、みなさまの大きな大きなお力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びに当たりまして、今大会の成功とそしてお集まりのみなさまのご健勝をお祈り申し上げます、私の方からの挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

事務局

はい。どうもありがとうございました。

本日は多くの方々に御出席を頂いております。時間の都合もありますので、お手元に配布しております総会出席者の名簿をもって出席者の紹介とさせていただきます。

また、第 2 回の総会以降異動等により代表者が変わられた団体もございますが、この名簿に太字で表記しておりますので、これをもって紹介とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

最初に参加のみなさまのご同意をお願いしておきたいと思っております。

この委員会は原則公開としております。さらに会議でのやり取りはHPで公開させていただきますので、よろしく願いいたします。また、本日ペットボトルの横に檜で作ったコースターを置かしていただいております。コースター以外にもマウスパットなんかもありますので、今日お帰りの際には記念にお持ち帰り頂けたら、というふうにご

思っている所でございます。また、本日の総会でございますが、会長も含めまして出席者が38名でありますので、実行委員会会則第9条第4項の規定によりまして、総会が成立したことをご報告申し上げます。

それでは、会議に入ります。会則により総会の議長は会長が行うこととなっておりますので、平井会長に議長をお願いいたします。

平井会長

それでは、早速議事に入らせて頂きたいと思います。

本日の次第に従いまして進めさせていただきたいと思いますが、次第の3番目報告事項3点でございます。一括して議題にしたいと思います。幹事長から説明をします。

鹿田幹事長

幹事長を仰せつかっております。農林水産部長の鹿田でございます。

本日はよろしく願います。

それでは報告事項ということで、木製ベンチの関係、それと基本計画作成業務、それと大会テーマという事で、概要だけ私の方で説明させて頂きまして詳細につきましては、事務局の各担当者から説明をさせていただきますので、よろしく願います。なお、みなさんの前に置かれております木製ベンチでございますけれども、今年の10月30日に開催されます「全国豊かな海づくり大会」そちらの方で使わせていただきますのでじっくりご覧いただければなというふうに思っております。

また、基本計画につきましても本年度基本計画を作るようにしていますので、今回委託業務の方を選定させて頂きました。

あと大会テーマにつきましては、これから各種PR活動に活用させていただきますので、機運を盛り上げて行きたいというふうに思っている所でございます。では、詳細を担当者の方から説明いたします。

事務局

全国植樹祭準備室の池内と申します。よろしく願います。

それでは、最初に木製ベンチ製作業務企画提案の選定審査の話しをさせていただきます。

では、お手元の資料の2ページをご覧下さい。ここに木製ベンチの製作検討幹事会ということで6名のみなさまの方に、3つの部門について選定をいただきました。

3つの部門と申しましたが、3ページに書いてありますが、無垢部門、LVL部門、Jパネル部門3つでございます。ちょうど前に置いておりますので1番向こう側の物が、これが無垢部門でございます。ご覧になっての通り、木をそのまま単板のまま活用いたしましたもの、真ん中の物がLVL部門の物でございます。LVLと申しますのは、厚さ40ミリの木をカツラむきのようにいたしまして、それを貼り合せたものでございます。それから

一番この私の手前側にありますのがJパネル部門で、これが厚さ12ミリの単板。これを3枚互い違いに貼り合せたものでございます。

この3つというのは県内で提供、供給できます加工素材としてこの3種類の物を選ばせて頂きました。で、これにつきましてそれぞれ7、3、5の15のアイデアを頂戴いたしまして、2月に審査会を開催しまして、選ばれたものが前にあるものでございます。1番向こう側の1番会長側のものが無垢部門の智頭町森林組合さんの作品でございます。ちょっと近くに寄らなければわかりにくいかもしれませんが、表がうづくり、木材の表面を削って木目を浮き出させたもので非常に砂丘の風紋のような装いがあるということで、これを最優秀に。

それから真ん中のLVL部門でございます。これは中国工業さん、中国工業株式会社さんのものでございまして、これは斬新なデザイン、デザインの斬新さ、これが評価されたものでございます。

1番私から見て手前のものこれがJパネル部門でございまして、大山プレカット協業組合さんの物でございます。これはデザインがシンプルであるところ、そして製作経費の安価なところで選ばれたようでございます。

今回はこれを50基ずつ製作いたしまして、4月29日の鳥取県植樹祭の方で活用させていただきました。お客様の方から色々ご意見を頂戴いたしまして、どれもすばらしいというご評価をいただいております。今年度これから「海づくり大会」に向けましてさらに数を増やして行き、最終的には1800基の発注を予定しているところでございます。以上でございます。

事務局

全国植樹祭準備室の近藤です。よろしく申し上げます。

引き続き5ページをお願いします。資料2基本計画作成業務企画提案の選定結果について報告させていただきます。

6ページに大会計画策定の幹事会のメンバーが出ております。幹事長他8名で構成しております。

7ページをお願いします。企画提案競技の概要ですが応募者数が4者でございまして、企画提案者によるプレゼン方式で審査会を3月23日に開催しましたところ、最優秀提案者として株式会社乃村工藝社・日本海テレビジョン放送株式会社共同事業体が選定されました。審査の基準は大きく分けて3つございまして、業務遂行能力、企画提案内容、それから価格この3点で審査を行っております。

8ページをお願いします。第64回全国植樹祭式典会場イメージ図でございます。これはJVからの提案そのままを載せさせていただいております。全体としまして大山が望める会場の配置となっております。また現地はフラットな地形ではありませんで、若干の傾斜がございまして、各施設を等高線状に配置した提案となっております。大きな造成を行

うことなく会場整備が可能な提案となっております。パースの中心から右斜め上の方に木造の建屋がございます。これが両陛下にご臨席いただきます、お野立所という建屋になります。その両横に木造の特別招待者席を配置しておりまして、特別招待者席の後ろに300インチのLEDの大型テレビジョンを設置するというようになっておりまして、両陛下の動きなどがそこにスクリーンとして映し出されるような提案となっております。それから中心から右側、2つの白の透かしで表現されております、大きなテントがございます。これが式典音楽隊それから合唱隊のテントになります。開口部を大きく開けておりまして音が飛び出すような工夫がなされております。それから来場者席中心部のセンター通路の後方ですがこれが三旗掲揚台の設置場となっております。さらにこの後ろが花で飾ったシンボルトワーを配置するようになっておりまして、フラワーパークでの開催をイメージ付けるような提案となっております。

9ページをお願いします。最優秀提案者に対する評価ですけれども、代表的なものを4つ掲げております。一つは鳥取県に根付いている人の起用ということで、地元高校生であるとか鳥取県に馴染みのある演出家等の起用を提案として受けております。

2番目としまして、「全国豊かな海づくり大会」の機運を高めるために森や海を守り育てる運動に参加した方を「白うさぎ大使」として認定しております。これを今回の全国植樹祭でも引き継ぐ形を取りまして「美鳥（みどり）大使」として新しい方向へ発展させましょうという提案を受けております。3番目としまして、パースの中でも説明しましたが、お野立所のみならず特別招待者席も木材を活用した構造を提案いただいております。それから1番大きな事としまして4点目の実行経費の抑制ということで、次点の提案者と比較してかなり安価な提案を頂きました。こうした点が高く評価されましたが、今後、提案内容を十分に精査し、幹事会やそれから専門委員会、そういったものの検討結果を踏まえながら基本計画の策定を本年度行う予定になっております。以上です。

事務局

植樹準備室の濱本です。私の方からは大会テーマの選定結果についてご説明をいたします。

資料11ページ、12ページをお開き下さい。大会テーマは「感じよう 森のめぐみと緑の豊かさ」が選定されております。11ページにありますように幹事長含め11名の審査員をお願いしております。大会テーマは県内在住の方から応募いただきました。募集期間は3月1日～4月13日まで、応募作品は全部で1,724点を頂きました。

これは先催県と比べてかなり沢山応募いただいております。例えば神奈川ですと1,400点、平成20年の秋田ですと全国公募で1,463点でありました。大変ありがとうございました。

審査の状況でございますが、審査員の方々に1,724点から、まず1人5作品ずつを事前に選考していただきまして48作品を選んで頂きました。その中から4月21日に4

8 作品の中から「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」米子南高校 2 年生の宇田川栞さんの作品に決定いたしました。審査会の講評といたしましては、森の大切さを、森の大切さや森を守ることの大切さを気付かせる作品である。それから将来に向けて森を守っていこうという発信が感じようという言葉で感じ、強くメッセージを発信されるというような講評でございました。この作品は社団法人国土緑化推進機構に対し、もうすでにテーマの協議を行い了解済みでございます。入賞者の方につきましては、6 月下旬頃表彰を行いたいと思っております。今後は、ポスターやのぼりなどでテーマを掲載していきますので植樹祭の大会機運を盛り上げて行きたいと思っております。

13 ページをお開き下さい。13 ページの方も最優秀賞の他に入賞作品として 9 点。合計 10 点を掲載しております。以上でございます。

平井会長

以上、3 点につきまして報告事項とさせていただきます。

それでは、いまの報告につきまして、なんなりとご質問やご意見を寄せて頂ければと思います。

もし、大丈夫でしたら、まあ報告でございますのでこれで良しとさせて頂いてもよろしゅうございますでしょうか？

～拍手～

ありがとうございます。

それでは、議事の方を進めさせていただきたいと思えます。

協議事項、まず平成 22 年度の事業報告・決算報告につきまして事務局から説明を求めます。

事務局

全国植樹祭担当参事を拝命いたしました梅田と申します。ご説明をしたいと思えます。

会議資料 14 ページをお開き下さい。平成 22 年度事業報告（案）でございます。

平成 22 年 6 月 28 日に実行委員会の設立総会を開催させていただき、この実行委員会が設立致しました。総会といたしましては、その次 11 月 24 日に植栽樹木、それから基本構想のご検討を頂いた、という 2 回でございます。

その間、幹事会それから専門委員会といたしまして植栽樹木の検討委員会を 7 月～8 月にかけて 3 回。それから大会計画、基本構想の幹事会といたしまして 9 月と 10 月に精力的に幹事会を行っていただきました。また、ご説明いたしました木製ベンチ、それから基本計画の業務委託のコンペティションの審査会、こちらを 2 月と 3 月に開催しております。

また、事業といたしましては、木製ベンチの製作事業といたしまして、ベンチの製作 150 基こちらは先月智頭町で開催しました県の植樹祭で実際に使ったものでございます。

それからプランターカバーの製作 200 基、こちらは昨年 10 月の「海づくり大会」の一年前のプレイベントで実際に使用させていただいたものでございます。以上を製作いたしました。

その他といたしまして、昨年度の国土緑化推進機構、共催相手でございますが、こちらと協議をいたしまして、昨年 8 月 26 日には国土緑化推進機構の理事会におきまして、鳥取県開催というのを決定していただいたところでございます。

次に 15 ページをお開き下さい。22 年度の収支決算でございます。収支が昨年の 6 月 28 日に実行委員会を設立してから 3 月 31 日まで間の出入りでございます。収入といたしましては、県から実行委員会への負担金と預金利息のみでございます。支出の部でございますが、実行委員会、幹事会の開催経費。それから木製ベンチ等の製作経費といたしまして、プランターカバーと木製ベンチの経費合わせて 374 万あまりを支出いたしました。合計しまして収入から支出を差し引きまして 871,668 円と次年度に繰越をさせていただきたいと思っております。以上、よろしくご審議をお願いいたします。

平井会長

この件につきましては監査を認めておりますので、監事の方から報告を申し上げます。

中島監事

はい。失礼いたします。監事をしております県の会計管理者の中島と言います。

よろしくお願いいたします。

それでは監査報告をさせていただきます。去る 5 月 18 日県庁におきまして平成 22 年 6 月 28 日から平成 23 年 3 月 31 日までの会計年度における収入及び支出に付き、帳簿並びに支出証拠書類等の関係書類を監査した結果、適正に処理記載されていると認めましたのでその旨をご報告させていただきます。以上でございます。

平井会長

それでは、これら事業の報告さらに会計の報告につきましてご意見ご質問等ございましたらお寄せいただきたいと思います。

それでは、特にないようでしたら、これでご承認いただくということで、よろしいでしょうか？

～拍手～

ありがとうございます。次の議事を進めさせていただきます。

本年度の事業計画それから収支予算さらに幹事会、専門委員会などその進め方につきまして一括して議題といたしたいと思います。それぞれにつきまして事務局から説明を求めます。

事務局

引き続き平成23年度の事業計画(案)をご説明いたします。資料17ページをお開き下さい。実行委員会につきましては、この本日の総会を含めまして後2回、年3回を予定しております。今年度の大きな予定でございます。基本計画の中間検討や最終決定をお願いする予定でございます。幹事会、専門委員会につきましては実行委員会から委任された審議や専門的な検討が必要な課題に対して開催をいたします。また今年度新たに市町村等連絡調整会議と言うものを設けさせていただきたいと思います。式典会場、植樹会場になります南部町さん伯耆町さん江府町さん、それから荒天、大雨等の場合の荒天会場になります米子市さん等、大会開催に係る市町機関と密接に連絡調整を図っていただく場と言うことで設置をしようとするものでございます。

次に開催2年前になります23年度、今年度は広報について力を入れたいと考えております。お手元、先ほど説明いたしました木のコースターのように全国植樹祭PRとなりますグッズなどの作成をいたしまして多くの方々に周知を図りたいと思います。また今年の年末年始、豪雪被害を受けた松林を復活すると言う「白砂清松」の復活ボランティアのような県民のみなさまが活躍される場面取材いたしまして、式典で映像として提供したいと言うことで、こちらの方も準備を進めたいと考えております。

また、「海づくり大会」の「ととリン」のような、かわいいキャラクターに次ぐシンボルマークの募集選定ということにも取組みたいと思います。なお、PR広報のPRキャラバンにつきましては、雇用の創出につながるように基金の活用を考えております。

また、23年度基本計画の策定と言う大きな仕事がございます。こちらの方の策定業務といたしまして、先ほどご報告にもありました選定された共同企業体様と一緒に具体化に取り組む他、県外からのお客様の宿泊や輸送の計画について本年度準備を進めたいと思います。

さらに両陛下がご臨席になります、お野立所の設計。こちらも今年度に行う事としております。その他、関係機関との連絡調整の他に両陛下のお手まきのサポートなど大会当日に活躍していただく「緑の少年団」これを県内で拡大、活躍できるような育成の方法と言うのを関係者のみなさんと相談しながら検討していきたいと考えているところでございます。

続きまして、18ページ23年度収支予算(案)でございます。収入の部は、昨年22年度からの繰越金のほかに本年度県の負担金は2,860万あまりでございます。預金利息を含めて29,524,000円を予算案としております。また、支出の部でございま

すが実行委員会などの開催経費、それから広報にかかる経費こちらを特出しいたしまして、1,150万あまり、それから基本計画など策定に必要な委託経費1,200万あまりを予定しております。あと事務局運営費を含めまして締めて2,900万あまりの支出を予定しております。

続きまして19ページ、20ページをお願いいたします。今年度この実行委員会からの委任と言う形で協議を深めていただきます。幹事会、それから専門委員会の設置についてのご説明でございます。実行委員会会則第11条第6項第2号には総会から委任された事項につきまして、幹事会で審議決定できると規定されております。年間を通じ検討または随時検討が必要な事項3項目につきまして幹事会の方に委任をお願いしたいと思います。

大会の基本計画の策定に関する事、これは24年1月の案の策定を目指して進めていくものでございます。また大会のシンボルマークの募集・審査に関しては大会のテーマに沿った募集をこれから開始するに当たり専門の幹事会でご審議をいただこうという物でございます。さらに今年度計画策定にあたりコンペなどを行います宿泊・輸送や大会の公式弁当などの配布業務などこういったものの募集審査に関する幹事会の方も委任をお願いしたいと思います。

20ページには専門委員会でございます。実行委員会会則の12条第1項につきまして専門的な事項を審議するために専門委員会の設置が認められております。今年度予定といたしましては、大会に付き物の式典の音楽。こちらにつきましては音楽家の方々に入ってくださいような専門委員会を考えております。さらにお野立所の検討、設計検討につきましては設計士、専門家の設計士の方を入れたような専門委員会をお願いしたいと思います。

以上、盛りだくさんでございますがよろしくご審議お願いいたします。

平井会長

資料10について、資料10も説明してください。

事務局

それでは、資料の末尾にありますA3版の今年度のスケジュール案ということでございます。まず総会は、第2回目の総会を11月中旬に予定しております。これにつきましては「全国豊かな海づくり大会」が終わった後、いわゆる中間検討を行って、全国植樹祭に向けたボルテージを一気に上げていこうというふうに思っている所でございます。また、幹事会や専門委員会を平行して開催しまして、年明けの1月中旬には基本計画の案を策定いたしまして、2月には国土緑化推進機構の特別委員会でこの基本計画が決定されるようなスケジュールで行いたいというふうに思っている所でございます。以上でございます。

平井会長

以上、議題とさせていただきます。

これにつきましてご意見ご質問など自由に発言していただければと思います。

いかがでございましょうか？

佐野委員

はい。

平井会長

はい、どうぞ。

佐野委員

鳥取大学の佐野といいます。こう着々と準備が進んでいるようで、何か頼もしい限りですけれども、去年に比べると今年の予算がかなり増えていますけれども、総額で大体いくらかを予定しているのかというのが一つと、今年は企画提案の中で非常に予算が抑えられたものを採用したと言いますが、この鳥取県の事業としては今までの開催に比べてどれくらいのレベルなのか？安いのか高いのかと言う、そのあたりを大体で結構ですので教えていただきたいということです。それと今年鳥取県の植樹祭をやられましたけれども、今年は国際森林年という事で、今後何か今年度に企画している事業等があれば教えて下さい。

事務局

まず1問目の総額がどれくらいで検討しているかという事でございますが、約7億5千万程度で計画を行っているところでございます。しかしながら、コスト意識を持って出来るだけ事業費は削減していきたいというふうに思っている所でございます。で、他の県が大体どのくらいかということでございますが、第60回の福井県大会では大体8億から9億ぐらいと言うふうに聞いておりますし、それ以前の植樹祭につきましては、会場費なんかの造成とか何十億ということを使っているようなところがございまして、それに比べると鳥取県の植樹祭に関して言えば既存の土地を利用したような簡単な造成等で行えるような式典とか、そういうことでかなり低く事業費を抑えて行きたいというふうに思っている所でございます。

それと国際森林年、今年は国際森林年ということで4月29日に智頭町の方で県の植樹祭を行いました。その際に全国植樹祭のスタートアップ事業という事で、実はアベマキの種を副知事や議長さん達にお手まきをしていただきまして、先般智頭町で行ったものですから智頭町の6校小学校がございまして、今後2年間アベマキの苗木を育てていただいて、それを2年後の植樹祭に使おうという事でお願いしてきたところでございます。いよいよ

そういった苗木のスクールステイですとかあるいは企業さん団体さん等に苗木をホームステイしてもらおうとか、そういったような活動を地道な事ですけれども、ちょっとずつやっていきたいかなというふうに思っている所でございます。

平井会長

佐野先生いかがでしょう？

佐野委員

ありがとうございます。

平井会長

その他いかがでしょうか？ ご質問でもご意見でも何でも結構でございます。

もし、ないようでしたらじゃあこれで、この原案のとおり承認するという事で、よろしゅうございますでしょうか？

(拍手)

ありがとうございました。ありがとうございました。

それでは、あともう1点その他につきまして議題といたします。

以上、色々のご意見を賜りましたけれども、その他の件、なんでも結構でございます。

ご意見なり、ご質問なり。

マイクをお願いします。どうぞお座りになってください。

常田委員

すいません、私、昨日まで岩手県に行ってまいりました。まだ宮城県、福島県には入っていませんが私どもの支所が盛岡にあるものですから、まず盛岡へ入りましてそして宮古に入りまして被災地の惨状を目の当りにして参りました。テレビ等々で見ている状況と実際に自分の目で見る状況との違いと言うのを改めて感じ、本当に声も出ない状況でありましたが、実は私、なんでいま手を上げさせて頂いたかといいますと鳥取県もそうでありませんが、もっと岩手県と言うのは宮古、久慈、釜石、この度、大変水産基地が壊滅的な状況になって今後5年間で復興できるかどうか分からないというような状況であります、実はこの地域は水産だけで成り立っているわけではありませんが、水産の方たちはいわゆる農業、または林業、またはしいたけ等の特産物そういったものと組み合わせさせて複合的に一軒の家の所得が成り立っているという地域なのです。したがって今回水産関係が壊滅的な状況で5年間恐らく復興できないだろうといわれている中で、そういうところに勤めていた人達がどんどん離れていかざるを得ないと言う声が聞こえて、それでその人達が

離れていくという事は、山を守る人たち、または農業を守る人たちそして特用林産物を守る人たちが残りたくても、残れないと言う状況。考えて見ますと鳥取県は先般も最初の会議の時に生物多様性の問題を言いましたけれども、実は今年「全国豊かな海づくり大会」そしてその後に植樹祭。この海と山とがまさに一体であると言う事は、常々言われていたわけではありますが、今度の震災、特に東北三県における水産と農林との一体、まさにその3つが一体とならなければ生計が立てられない地域なのです。そういうことで今度の「豊かな海づくり大会」においても、ぜひ、山と海とがいかに一体であるかと言う事を知事の方から強く発信して頂きたい。合わせて植樹祭の時にも、いかに海がダメになれば山もダメになるのだと、だから一日も早く海を復活させようじゃないか復興させようじゃないか、ということも発信していただくと言うことで、5年と言われている地域の復興が一年でも早くなるように鳥取県から全国に発信していただき、認識をさらに全国から深めていただく様に、知事会等を通じてお願いをしていただきたいと思いますというふうに思います。これは、意見を頂くとすることよりも知事に、また伊藤新議長にお願いでありますので、よろしく願いいたします。すいません。

平井会長

常田理事長、ありがとうございました。「海づくり大会」もまあ実は先般、急遽テーマを差し替えまして災害からの復興と言うことを、いちおう新テーマに作らせていただきました。まあ今回大きな被害がありました岩手県を始めとした東北の地域でございますけれども、東北から生まれた言葉が「森は海の恋人である」と言う言葉でございます。これは地域の中で森と海とが一体性のある存在としてあり、それをお互いが補い合って自然が密に仕上がっていることを教訓としたものでありまして、そういう運動も始まったふるさとでもあります。

常田理事長がおっしゃった通り、この「海づくり大会」また「全国植樹祭」こうした海と山が一体となりまして、もう一度再興を果たしていくように道筋をつけていけるように頑張ってもらいたいと思っています。当然ながら伊藤議長共々に国の方にもそうした主張させていただきたいと思います。ご指摘の主旨は、今後の基本計画や実施計画を作っていきますが、その中で十分にその認識をして作成していくように事務局としても対応してもらいたいなと思います。

常田理事

よろしく。

平井会長

よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

その他いかがでございましょうか？

もし、ないようでしたらこれにて本日の実行委員会を閉会とさせていただきたいと思
います。最後に伊藤議長の方からですね、ご挨拶を頂きたいと思ます。

伊藤副会長

失礼します。5月9日に新しい議長に就任しました伊藤美都夫であります。今日の会は緑
化推進委員会の理事長と言う立場で出席させていただきました。今年は、第31回の「全国
豊かな海づくり大会」が開催されますが、いみじくも私は、海づくりの方にも漁協の組合長
としてすべからずこの計画に参加させて頂きましたし、またここで25年に開かれる植樹祭
の計画の中に参加させてもらう事を非常に実は喜んでおります。先日、私も宮城県に行っ
て参りました。宮城県議会の議長、畠山と言う方でありまして畠山さんと言うと、いまピ
ンとこられた方もあると思ますけれども、気仙沼でカキの養殖をしながら「森は海の恋
人」と言う言葉を日本中、世界中に広げられた畠山重篤さんがおられるところでございま
して、宮城県の議長はこの畠山さんとの姻戚関係が非常に強いという事もあって、その畠
山議長に努めてこの海と緑化の関係を、もう一度指導教育を受けました。特に宮城県議長
は「気仙沼で全部流されても皆は生きてると、まゝ家族が救われてほっとしたけれど、
後は何にもない。また一から海も緑も造り上げていかねばならん」と、まゝ並々ならぬそ
ういうことをやっておりましたけれども、どうしてもこの自然の問題と言うのは、想定し
てしますものですが、自然は想定できるものではない。いつ何がおきてもおかしく
ない。そういうもとで海づくり、あるいは森づくりに全力を尽くそうと言う話をやっこの
の間4、5日前に宮城県で話してきました。みなさん方もご承知のように、今日私もずっと
席上から森を見ていると、春の海は笑っている、と表現をよく使っていますけれども、
その木それぞれが広がってまさに新緑と言うのは本当に笑顔で、そして笑っている姿とい
うのが浮かぶわけでありますが、やっぱり海と森と言うのはどうしても切っても切れない
間柄と言うことで、私は強く本当に鳥取県で主張していきたいなと思っております。

この式典会場になります花回廊、私は花回廊の場所選定にあたっては、前西尾知事と随
分、知事に向かって喧嘩している訳ではないのですけれども、言い合ったりしたことがあ
りますが、会場選ぶ時に私が行くたびに借景の大山がくっきりと見えていました。それは
写真でも撮ってありました。それで知事にお見せいたしますと知事は私が行く所、行くた
びに曇っていて大山が見えない。そういう話がありまして、まゝ日頃の何がいいか悪いか
みたいな話をされて怒られた事を覚えていますけれども、あの会場で式典が行われるとい
うことで私も二重三重の喜びを感じるわけであります。今日の今回のテーマ「感じよう 森
のめぐみと 緑の豊かさ」これはまさに鳥取県民あるいは全国民が、感じて欲しいテーマだ
ろうと思っております。みなさん方もそれぞれが鳥取県からその森や海を発信できる機
会を持ったと言うことで、再度もう一つみなさん方も役割の一端を担っていくと言うこと
で認識して欲しいなと思っておりますし、私どもも力いっぱい委員会としてもこの問題につ
いて取組んで行きたいなと思っております。今日は熱心な討議ありがとうございました。

(拍手)

事務局

はい、ありがとうございました。以上をもちまして全国植樹祭鳥取県実行委員会第3回の総会を閉会いたします。みなさんには熱心にご協議いただきありがとうございました。気をつけてお帰りいただきたいと思います。

鹿田幹事長・事務局

どうもありがとうございました。